



軽防協ニュース速報

2016年第4四半期(10月-12月)の伝染病発生状況

2017年3月配信

(International Collating Centre からの情報)

オーストラリアからの報告は、1 四半期遅れて配信されることに注意されたい。しかし、オーストラリアからの第 3 四半期の報告がわずかに遅れている。報告され次第直ちに配信する予定である。その他の国の 2016 年第 4 四半期の報告は通常の形式で記載する。

オーストラリアの 2016 年第 3 四半期の報告

オーストラリアからの第 3 四半期の報告は後日配信する。

2016 年第 4 四半期の報告

アルゼンチン

報告事項なし。

オーストラリア

冒頭で述べたように、2016 年第 3 四半期の報告は上述のとおりである。

カナダ

馬伝染性貧血 (EIA)

2016 年 10 月 1 日から 2016 年 12 月 31 日の間に、サスカチュワン州の 1 施設において、EIA 陽性例が報告された。この施設では新規感染例で、当該馬は過去に感染馬と接触があったために検査が実施された。診断は寒天ゲル内沈降反応にてなされた。

チリ

報告未着。

デンマーク

報告未着。

フランス

(馬感染症疫学監視ネットワーク RESEP からの情報)

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による流産

2016 年 12 月 28 日、30 日にオルネ県において EHV-1 による流産の発生が 2 例確認され、疫学的に関連がみられた。胎子肝臓を用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による神経型疾患

2016 年 10 月 21 日、パド＝カレー県において EHV-1 による神経型疾患の発生が 1 例確認された。感染馬は 8 歳の牡馬であった。PCR 検査によって確定診断がなされた。

2016 年 11 月 23 日、ムルト＝エ＝モーゼル県にある運動施設内の 60 頭中 9 頭で発生が確認された。感染馬は運動失調や発熱、沈鬱を含む神経症状を呈した。確定診断は鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査によってなされた。他に関連した発生は確認されなかったが、この発生により地域に EHV-1 感染に関する注意が喚起された。感染が疑われると即座に適切な予防策が施された。

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による呼吸器疾患

2016 年 10 月 19 日、マンシュ県で EHV-1 による呼吸器疾患が 1 例確認された。感染馬はサラブレッド種で最終的には死亡した。PCR 検査によって確定診断がなされた。

2016 年 10 月 28 日、セヌ＝エ＝マルヌ県で EHV-1 による呼吸器疾患が 1 例確認された。PCR 検査によって確定診断がなされた。

2016 年 11 月 18 日、オルネ県で EHV-1 感染が 1 例確認された。PCR 検査によって確定診断がなされた。鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

2016 年 12 月 2 日、モーゼル県で EHV-1 による呼吸器疾患が 1 件確認され、60 頭中 2 頭が感染した。感染馬は沈鬱、食欲不振、発熱、鼻漏等の症状を呈した。鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

ウマヘルペスウイルス 4 型 (EHV-4) による呼吸器疾患

15 件の EHV-4 による呼吸器疾患が確認され (11 件は 1 例、3 件は 2 例、1 件は 3 例)、1 件ではフレンチサドルブレッド種 1 例が含まれていた。発生地域は、カルバドス県、ドルドーニュ県、ガール県、メヌ＝エ＝ロワール県、マンシュ県、モーゼル県、ニエール県、オアーズ県、オルネ県、バンデー県であった。感染馬は発熱や鼻漏等の症状を呈した。14 件の発生については、鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。1 件の発生については、気管洗浄液を用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

ピロプラズマ病

フランスでは依然として風土病である。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

12 件の発生が 2016 年第 4 四半期に報告された (7 件は 1 例、1 件は 2 例、1 件は 3 例、1 件は 10 例)。発生地域は、エーヌ県、アルプ=マリタイム県、アベロン県、ブーシュ=デュ=ローヌ県、クルーズ県、ジロンド県、エロー県、ノール県、パ=ド=カレー県、ピュイ=ド=ドーム県、イブリーヌ県、タルン県であった。感染馬は鼻漏、発熱、リンパ節症、発咳、嚥下障害、膿瘍、沈鬱等の症状を呈した。鼻咽頭スワブ、膿、膿様鼻漏を用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

ドイツ

報告事項なし。

Dr.Boese 研究所有限会社 (HBLB の CEMO 認定研究所) による追加結果

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による流産

2016 年第 4 四半期に、1 施設において EHV-1 による流産の発生が確認された。確定診断は穿刺吸引した胎子肺や子宮内膜スワブを用いた PCR 検査によってなされた。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

2016 年第 4 四半期に、異なる 5 施設において腺疫の発生が 5 例確認された。感染馬は発熱、鼻漏、リンパ節症等の症状を呈した。確定診断は、細菌培養、鼻咽頭スワブや下顎リンパ節膿瘍を用いた PCR 検査によってなされた。

香港

報告事項なし。

アイルランド共和国

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1)

2016 年第 4 四半期の 12 月に、キルデアで 2 例の EHV-1 の発生が報告された。詳細な報告は無かった。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

2016年第4四半期に7例の腺疫の発生が報告された。発生地域は、レンスター（5例）、ミュンスター（2例）であった。更に17例の発生が確認され、12例は農務省、5例はレンスター地方当局によるPCRにて診断された。

イタリア

報告事項なし。

日本

ウマヘルペスウイルス1型（EHV-1）による流産

2016年10月31日からEHV-1による流産の発生が確認され、2016年12月30日までの発生頭数は7施設で7例であった。サラブレッド種および非サラブレッド種の両方が感染し、2例はワクチン接種済みであった。確定診断は、北海道日高家畜保健衛生所、胆振家畜保健衛生所および北海道釧路家畜保健衛生所で実施された。

ゲタウイルス感染症

2016年10月5日、ワクチン接種済みの2歳サラブレッド種からゲタウイルス感染症の発生が確認された。発熱は軽度で感染馬は容易に回復した。確定診断は日本中央競馬会競走馬総合研究所分子生物研究室にてRT-PCRを用いて行われた。

ニュージーランド

報告事項なし。

シンガポール

報告事項なし。

南アフリカ

アフリカ馬疫（AHS）

2016年10月にハウテン州で、12月にはハウテン州とノースウエスト州でAHSのそれぞれ独立した発生が報告された。いずれも南アフリカにおけるAHSの風土病地域である。

ウマ脳症ウイルス

2016年10月にウエスタンケープ州のクニスナ地域で1例のEEVが報告された。

韓国

2016年、韓国で飼養されている馬において、馬ウイルス性動脈炎（EVA）、馬伝染性貧血（EIA）、アフリカ馬疫（AHS）、水胞性口炎（VS）、ウエストナイル熱（WNF）および日本脳炎が存在している可能性について調査するために、血清学的なサーベイランスが行われた。

サラブレッド種牡馬、繁殖牝馬、競走馬、ポニーおよび乗馬を含む合計1380頭の血清がこの調査に用いられた。血清の採集は韓国馬事会（KRA）によって行われ、検査は韓国検疫検査本部（QIA）によって実施された。また、スーラ病の検査もKRAにおいて実施された。結果は以下の通りである。

アフリカ馬疫（AHS）

市販のELISAキットにより全ての検体で陰性が確認された。

馬ウイルス性動脈炎（EVA）

以前に接種されたEVAワクチンのため、ウイルス中和（VN）試験で7検体（種牡馬の0.5%）が陽性となった。

馬伝染性貧血（EIA）

寒天ゲル内沈降反応により全ての検体で陰性が確認された。

日本脳炎

ワクチン接種により、VN試験によって1139検体（82.5%）が陽性となった。

スーラ病

トリパノソーマ病に対する市販のカード凝集試験（CATT）によって、全ての検体で陰性が確認された。

水胞性口炎（VS）

市販のELISAキットにより全ての検体で陰性が確認された。

ウエストナイル熱（WNF）

市販のELISAキットにより全ての検体で陰性が確認された。

スペイン

ウエストナイルウイルス感染症（WNV）

第4四半期中9例のWNV感染症が確認され、2016年12月16日に最後の報告がなされた。更なる情報は得られていない。

スウェーデン

報告未着。

スイス

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による神経型疾患

2016 年 10 月 24 日に 1 件の EHV-1 の発生が確認された。更なる情報は得られていない。

ウマヘルペスウイルス 4 型 (EHV-4)

2016 年第 4 四半期中に 1 施設で 4 例の EHV-4 の発生が確認された。

エールリヒア症

2016 年の第 4 四半期中に 1 件のエールリヒア症の発生が確認された。確定診断は PCR にてなされた。更なる情報は得られていない。

ピロプラズマ病

2016 年 10 月中に、1 件のピロプラズマ病の発生が確認された。確定診断は PCR にてなされた。更なる情報は得られていない。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

2016 年の第 4 四半期中に 2 件の腺疫の発生が確認された。異なる 2 施設でそれぞれ 2 例と 3 例の発生であった。確定診断は菌分離によってなされた。更なる情報は得られていない。

トルコ

報告事項なし。

アラブ首長国連邦 (UAE)

報告事項なし。

イギリス

イギリスの症例や発生報告は、第 4 四半期以降の中間臨時報告として既に発表していることに注意されたい。腺疫はイギリスの馬では風土病となっている。

アメリカ合衆国

クロストリジウム腸炎

ケンタッキー州において、*C. perfringens* A 型 β -2 毒素による腸炎の限定的な発生が報告された。

馬媮疹

ケンタッキー州において、1 例の EHV-3 による性感染症である馬媮疹が確認された。

東部馬脳炎 (EEE)

2016 年末 3 ヶ月の間に 15 例の EEE の発生が確認された。発生 5 州のうち大部分がウィスコンシン州 (9 例) で確認された。

ウマヘルペスウイルス (EHV) による疾患

EHV-1 および EHV-4 が複数の州で拡大し、EHV-4 は主に弱齢の子馬の呼吸器疾患と関連していた。カリフォルニア州およびフロリダ州では EHV-1 による神経疾患の発生が報告された。カリフォルニア州では EHV-1 の発生が 2 件あり、1 件目は馬術センターにおいて 6 例が神経症状を呈し、うち 1 例は安楽殺されたこと、2 件目はハイデザート牧場で 2 例が症状を呈し、両馬とも生存した。EHV-1 による神経疾患の死亡例が 1 例、3 件目の発生としてフロリダ州の 1 施設で確認された。

ウマヘルペスウイルス 2 型 (EHV-2) および 5 型 (EHV-5)

EHV-2 あるいは EHV-5 の発生が多く、しばしば呼吸器感染の臨床所見と関連していた。

馬伝染性貧血 (EIA)

ユタ州で EIA の単発例が 1 例、診断された。

馬インフルエンザ

アメリカにおいて馬インフルエンザは風土病である。2016 年第 4 四半期は各州で発生が確認された。

馬増殖性腸症

ケンタッキー州およびミシガン州において、*Lawsonia intracellularis* 感染が複数報告された。

ロドコッカス感染症

Rhodococcus equi 感染症はアメリカ合衆国では広く流行している。期間内に何例かが報告されたが、現在も調査中である。

サルモネラ症

数州でサルモネラ症の発生もしくは単発例が報告された。すべての症例で C1 群 *Salmonella* 属菌が関連していた。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

アメリカ合衆国において腺疫は風土病である。2016 年第 4 四半期において、複数例の発生が幅広い州で報告された。

ウエストナイルウイルス脳炎 (WNVE)

20 例の WNVE の発生が 6 州で報告され、うち 11 例はオクラホマ州とフロリダ州で、ロバでの発生も 1 例確認された。感染馬のほとんどが本病のワクチン接種歴の無い馬であった。

ベネズエラ

報告未着。